

## 4年 「グリーンマップ上地」を作ろう 4月～3月(85時間)

### 1. ねらい

- ・調査活動や話し合い活動を通して、上地の町をよくしようとする意識を持ち、活動できる。
- ・調査したアイコンについて自分の考えや感じたことを話し合い、まとめながら、上地の町をよくするためにできることを自分で考えることができる。
- ・お互いが感じたことや体験したことを話し、アドバイスし合う場面を設定することで、互いの課題追究の仕方を見直し、新たな課題を見つけることができる。

### 2. 実践の概要

#### (1) 上地の環境を見つめよう

1学期に「ツバメにとって上地の環境はどうか」という課題で取り組んだ子供たちは、ツバメのえさ、えさ場、巣作りの場所、見守る人の心の温かさなどを知ることができた。「来年も上地にツバメが来てほしい」「これらもツバメを見守っていききたい」という気持ちを持つことができた。

2学期は「わたしたちにとっての上地の環境はどうか」という「人にとっての環境」に視点を移し「グリーンマップを作ろう」という活動为目标に環境調査に取り組んだ。

#### (2) グリーンマップ調査をしよう

グリーンマップとは、世界共通のアイコン(絵文字)を使って、身近な環境を自分たちの手で地図にしていく活動である。「グリーンマップおかざき」に所属する太田由美子先生が本校に勤務していることもあり、講師として説明してもらった。

そこで、子供たちは地区ごとにグループを作り、調査活動を行った。1回目の調査活動、まずはじっくりゆっくり歩いて、五感を使って、自分の町を歩いてみる。そして、いろいろなアイコンを自分で見つけていく。どうしてそのアイコンをつけたのか自分の考えを伝え合い、グループで話し合う場を設定した。その話し合いをもとに、子供たちは「子供や老人に優しいアイコン探し」「自然のアイコン探し」「ゴミなどが落ちている悲しい場所のアイコン探し」というように、自分の興味を持ったアイコンを選び、それぞれでテーマを決めて調査を行った。



#### (3) アイコン認定会をしよう

##### ①現地での発表

太田先生の協力を得て、現地で報告会を行った。調査隊が選んだアイコンをもとに、おすすめの場所と選んだ場所を紹介した。紅葉が美しい場所、やすらぐ場所など「よいところ」を見つけた反面、「悪いところ」として、落書きやゴミの多さなどが挙げられた。

##### ②友達に伝える発表の工夫

現地に行かず教室で発表を行う場合は、デジタルカメラで撮った写真やビデオで映像を紹介して、その場所の雰囲気が味わえるように工夫した。

##### ③意見や感想を伝え合おう

子供たちは、今までの調査活動から得たものや感じたことを話すうちどうしていけないのか困ってしまったが、太田先生から「大人になった時に、どんな町になっていたらうれしいか。みんなで行動したり、言葉にしたりして、人に伝えていくことが大切です。」というアドバイスをもらい、次の活動を考えるきっかけとなった。

### 3. 実践を振り返って

1、2学期の活動を通して、「これから上地をどんな町にしていきたいか」の課題を決め、「自分たちにできることは何か」と真剣に考えるようになった子供たち。3学期には声に出すこと、言葉にすること、人に伝えていくことを重点に、具体的に自分たちでできることを考えて、実践していきたい。